



慶應義塾大学ビジネス・スクール

大森ボルト株式会社

5

1 製造間接費の配賦基準

大森ボルト株式会社は、東京都大田区に本社をおく建設資材用大型ボルト・メーカーである。同社は、仕様の異なる3種類のボルトを製造し、様々な業種の顧客企業へ納入していた。大森ボルトは、大森西工場と大森東工場の2つの工場でボルトを製造している。大森西工場は、同社創業時からある古い工場で、直接工の熟練に依存した労働集約的な工場である。これに対して、大森東工場は、オートメーションが導入された最新式の工場で、そこでは、数値制御（NC）工作機械を少数の直接工が操作していた。

10

大森西工場には、製品 Y-720 のボルトの製造全工程と、製品 K-414 の仕上げ工程とが設置されている。これに対して、大森東工場では、効率的なラインを利用して、製品番号 M-712 の標準的なボルトを大量生産している。また、大森東工場は、製品 K-414 の基礎切削工程を担当しており、最終的な仕上げのため、仕掛品を大森西工場へと納入していた。すべてのボルトは、バッチ生産方式で製造され、1つのバッチは1種類のボルトのみを含んでいる。大森ボルトの製品はすべて受注生産であり、同社は、原則として、原材料・製品とも在庫を保有していない。原材料は必要に応じて調達され、製品は完成後ただちに発送される。

15

20

大森ボルトのすべての製品は、同社の営業部門によって、顧客企業に直接販売されていた。製品 Y-720 は、顧客企業の特殊用途に合わせてカスタマイズされた特殊なボルトで、受注にあたっては、営業部門が顧客と詳細な仕様を詰める必要がある。これに対して、製品 K-414 は、標準的製品である M-712 を顧客のニーズにあわせて精度を強化した製品であり、高度な要求仕様を充たすため、大森西工場で最終仕上げ工程が行なわれていた。製品 M-712 は、標準的製品であり、その販売にあたって営業努力はさほど必要とされていない。

25

このケースは、慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 太田康広がクラス討議の資料として作成した。ケース中の企業は架空のものである。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 太田康広（2007年5月作成）